

# 境野新遺跡公園を整備

## 富山市教委 古墳時代の竪穴式住居跡



整備された富山市境野新遺跡公園（同市教育委員会提供）

富山市埋蔵文化財センターによると、境野新遺跡公園では古墳時代中期（5世紀前半）の竪穴式住居跡の上に盛り土をし、柱の位置などを再現して展示している。1973年に整備されて以来44年が経過し、周囲に草が生え、土が堆積して

分かりにくくなっていた。呉羽丘陵には、竪穴式住居とほぼ同時期につくられたとみられる古沢塚山古墳があり、散策スポットとなっている。同センターの黒智久主査学芸員は「地域の歴史を学ぶと同時に、健康寿命増進に活用してほしい」と期待を込めた。

金屋ふるさとこの会とNPO法人きんたろう倶楽部が、呉羽丘陵の一角にある湧き水の滝「幻の滝」周辺で行う広場整備では、来年に外部の有志を交えて方針を話し合う意見交換会の開催を検討している。

広場整備を提案した同会の今井壽子さんによると、意見交換会では、広場に至る古道の整備方法や設置するヒートアップの形状、植栽する花や木の種類について話し合い、誰もが使いやすい広場づくりにつなげる。今井さんは「来年には多くの人が立ち寄れる場になるよう、作業を進めたい」と意気込んでいます。

# 呉羽丘陵 自然歩道活用を促進

富山市の呉羽丘陵で、同市が普及を目指す自然歩道「フットパス」を活用する取り組みが進んでいる。同市教育委員会は30日、呉羽丘陵に近い同市境野新遺跡公園で、竪穴式住居跡の整備を行ったと発表

した。金屋地区の住民有志らでつくる「金屋ふるさとこの会」などによる滝を活用した広場整備も進み、自然や歴史を体感できるスポットとして官民ともに充実を目指している。